

授業作り	重 点	○通常学級における特別支援教育を推進し、ユニバーサルデザイン化や個別最適化を進めることで、どの児童にも分かりやすい授業を展開する。
環境作り		○特別活動を活性化し、自分の考えをもち、伝え、受け止め、折り合いを付ける実践を重ね、児童が主体的に活動する風土を醸成する。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年	/	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用具の準備や片付けなど、基本的な学習習慣を身に付けることができるようにする。 ・集中して学習に取り組むことができる時間が長くなるようにする。 ・平仮名、片仮名の読み書きについては、文字の形や筆順に注意して指導し、宿題や朝学習を活用して繰り返し練習をしていく。 ・算数では、ブロックなどを活用して具体物操作を通して量について身に付ける必要がある。 ・学習全般において個人差があるため、個に応じた指導内容で取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習用具の使い方について繰り返し指導 ②ミニボードで1時間の活動内容を提示 ③指示は短く分かりやすい言葉で行う。 ④家庭学習や朝学習で多くの言葉に触れる機会をもつ。 ⑤算数の計算練習等は、既習内容を繰り返し指導して知識の定着を図る。
2 学 年	令和5年度学力定着度調査では、国語96%、算数が88%と区を上回っている。読書や話し合い活動を通して、語彙増やしてきた。場面の様子を読み取り、想定される発言を書く「応用・記述式」は区の平均を下回ったため、自分の言葉で考えを書くことが必要である。算数では、単位換算や場面変化に従って立式する問題で区平均を下回ったため、場面の様子を考える活動を増やす必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、漢字の読み書き、音読を行っている。 ・必要な言葉を用いて正しく文章で表現する指導が必要である。 ・半具体物の操作と関連付けて、題意を捉えて立式させる必要がある。 ・計算では、個別指導も必要である。 ・時刻の読み方、「何番」と「何番目」の順序数については、生活の中で慣れていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①音読により、発音に慣れ語彙を増やす。 ②スピーチ活動や各教科で話型を使って考えを表現する。 ③加減計算プリントを毎日行う。 ④数唱えや目盛りを読む活動を行い、数量感覚を養う。
3 学 年	令和5年度学力定着度調査では、国語、算数共に区の平均を上回っている。国語では、概ねどの設問も区平均を上回っているが、国語辞書の扱いについては区平均を下回った。算数も概ね区の平均を上回っているが、基礎問題における記載ミスが見られる。	<ul style="list-style-type: none"> ・話を集中して聞く力が必要である。 ・具体物操作や見当をつける活動により、数量感覚を高めることが必要である。また、操作活動と関連付けて考えることで、文章題を正確に把握する力をつける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①タブレット端末を活用し、発表、調べ学習、個別最適な学び等を充実させる。 ②具体物から考える活動や、授業の視覚化、焦点化等の工夫をしていく。
4 学 年	令和5年度学力定着度調査では、国語・算数共に区の平均と同等である。国語では、基礎問題の選択ミス及び文章についてまとめた文を正しく書く問題が区の平均を下回っている。算数では、応用問題の正答率が高い一方、基礎問題の単位量に関する問題の誤答が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流の機会を多く取り入れ、互いに感じたことを、互いに伝え合うことができる。 ・日常的に辞書を引くことを習慣付けることが必要である。 ・タブレット端末の活用をさらに充実させ、協働的な学びを行い、思考力や表現力を高めることが必要である。 ・朝学習の時間を有効活用することを定着させ、個に応じた習熟を促すことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①日常的に辞書を引く活動を行う。 ②タブレット端末の活用を発表、調べ学習、個別最適な学び等を充実させる。 ③自分の書いた文章を読み返すよう促す。友達からの助言を受けられるようペア・グループでの活動を活性化させる。

5 学 年	令和5年度学力定着度調査では、国語は区の平均を上回っているが、算数は区の平均を下回っている。国語の基礎問題である、正しい語句の選択は区平均を大きく上回っている。正しい語句や文を記述する問題は正答率及び無答率が高くなっている。算数はほぼ全ての問題で区の平均を下回っている。基礎基本の定着が必須である。	<ul style="list-style-type: none"> ・話す人の顔を見ることが話し手を意識できるような言葉かけが必要である。 ・既習漢字、言葉を日常的に使うことができるような取り組みが必要である。 ・適宜計算方法を復習し、繰り返し練習問題に取り組むことが必要である。 ・学習と学習のつながりを意識させる取り組みが必要である。 ・タブレット端末の活用をさらに充実させ、協働的な学びに生かし、思考力や表現力を高めることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①タブレット端末の活用を発表、調べ学習、個別最適な学び等充実させる。 ②学習内容について、学年ごとに学習してきたことと結び付けるよう指導する。 ③日記の課題で文章力と日常的な漢字の活用を、短歌や俳句、川柳等で身の回りの出来事や季節などに関する言葉に触れる。 ④基礎基本の定着のため、反復練習を行う。
6 学 年	令和5年度学力定着度調査では、国語、算数共に正答率は90%を超え、区の平均を上回っている。応用問題の正答率も高い一方、基本的な問題の記述については区の平均を下回っているものもある。算数は基礎、応用共に正答率が高く、基礎学力の定着が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項、漢字を日常的に使うことができるような取り組みが必要である。 ・文章構成を考えたり、重要語句を捉えたりして書くことができるような取り組みが必要である。 ・算数における文章題の読み取り、図や表、数直線を使った考え方等、指導の継続が必要である。 ・協働的な学びに生かしながら、思考力や表現力を高めていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①漢字ドリルを使って新出漢字の学習をし、タブレット端末を使って繰り返し学習する。 ②読書活動後の短い感想は継続する。 ③デジタルドリルやプリント等を使って基礎・基本の学習を繰り返し行い、定着を図る。 ④タブレット端末を活用し自分の考えを表現し、友達の考えと比較しながら、より深い思考力を育てていく。
特 別 支 援			